

無駄になった苦勞と見えないところでもがいた者たち

生徒会部長 千田 拓也

桜陽祭を思うとき、心にうつりゆくのは、表舞台にあらわれることのない、たたくさんのものやことだ。

初日の仮装パレードの話をした。生徒会部には、無駄な努力になることを願いつ取り組まなければならない業務がある。雨天プログラムである。今年も生徒会室の窓には、てるてる坊主が何体もぶら下がった。生徒会執行部全員中止にならないことを強く願っている。その中でパレードが中止になったことを本気で考えるのはなかなか難しいものである。しかし、本当に中止になった時を想像すると、その場しのぎや間合わせの安易な企画は、中止で下がってしまったテンションを取り戻すには心もとない。仮装パレードを実施す

るために、クラスでは多くの時間とエネルギーを注ぎ込む。テーマやコンセプトを決め、クラス全員分の衣装を作成し、パフォーマンスを考え、練習する。人を集めるだけでも大変な苦勞である。サンモールでのパフォーマンスはクラス全員が参加する。家族や地域の方が多く見に来る。桜陽会に審査の協力もしていただいている。

雨が降ったとして、第一体育館での生徒向けパフォーマンスだけで終わってしまうのはどう考えてももったいない。せっかくつくった衣装を生かせるプログラムを模索した。結果、担当者がひねり出したのが、ファッションショーというアイディアである。一体をランウェイに見立ててクラス代表が衣裳をアピールしながら歩くという案である。想定したコースを実際に歩き、時間を計測し、コ

ースを調整し確定した。音楽やアナウンスのこともぬかりない。少なくともここ数年の中では最もよく練られた案であると私は評価する。

本番前日の天気予報によると、当日雨が降る可能性が出てきた。よほどでない限り実施したいとは考えてはいた(し多くの生徒や教職員もできるだけの実施と思っているのではと思っていた)。それでも、万が一天候が悪変して中止になることを想定して、第一体育館でのパフォーマンスを審査すること、全員が出場したいクラスは、サンモールに近い発表ができるようにと前日のうちから段取りを取った。雨具を持参することも指示した。当日の朝は、曇ってはいたが雨は降っていなかった。予報でも、大崩れは予想していない。正直これはいけるなと思っていた。それが、学校に着いたからぼつぼつとはじまった。長くは降り続かないにせよ。まずいと思っ

想定していたパターン

は三つ。①予定通り実施、②中止、③一時間遅れで出発パフォーマンスなし、である。三名の年次主任と教頭とで判断のための会議を持つ。最新の天気予報を三社分プリントアウトして、実施を腹案として臨む。実施した場合の懸念が次々と出された。三日間通してみた場合初日に体調崩すのどうか、二日目以降も使用する衣裳が、ダメージを受けることは避けたい。雨だけならまだしも、強風が加わったことが、実施への逆風となった。出された意見はいずれも生徒を考へてのものであるし、それ自体に反論できるものでもない。この後好天に転じるといような明かな好材料もない。埒あかず、職員会議、年次ごとの話し合いを経て、最終会議で実施となった。出発が二十分遅れになった。実施にあたって、学校全体が様々な形で動いてくれた。雨対策としてゴミ袋を大量に投入、鳴り続ける問合せの電話への対応、関係各所への遅延・実施の連絡、出発の遅れを回復するために

急遽決めたパフォーマンス後の動きの変更への対応、遅れても雨の中待っていてくれたPTAのお手伝い、ウェブサイトの書き換え、見事だった。雨天のため一時不参加を決めていた吹奏楽団も、団員の強い思いにより出発直前に参加が決まり、パレードに花を添えてくれた。

華やかな発表や仮装ができるまでには、採用されなかった案もあっただろうし、誰にも見えないところで、ひとり衣裳をつくっていた切ない時間もあつただろう。周りに協力を得られず被った苦勞。ボツになった案。

何日もかけて準備をした雨プログラムも、実施という結論に至るまでに思いや考えや智慧を出し合つたことも、念のためにしたが使用しなかった体育館での審査も。それら表にあらわれないすべてのもの達へここより賛辞を送りたい。



---

---

---

---